

指導資料



鹿児島県総合教育センター

保健・体育 第35号

—小学校，中学校対象—

平成21年5月発行

運動の楽しさを味わう学習指導の在り方

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、体育科，保健体育科においては、「運動に興味をもち活発に運動をする子とそうでない子との二極化傾向」，「生活習慣の乱れやストレス及び不安感が高まっている現状」，「子どもの体力低下」，「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が不十分」などの課題を踏まえ，引き続き「生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現すること」を重視している。この観点から，体育科，保健体育科の目標として「運動に親しむ資質や能力の育成」，「健康の保持増進のための実践力の育成」，「体力の向上」が示されている。

そこで本稿では，運動に親しむ資質や能力を育成する基礎を培うために，運動の楽しさを味わう学習指導の在り方について，第4学年器械運動(跳び箱運動)を例に述べる。

1 「運動の楽しさを味わう」体育科の学習指導の基本的考え方

体育科の学習を進めるに当たっては，運動の特性の構造(図1)を理解することが重要である。運動の特性は，一般的には「機能的特性」，「効果的特性」，「構造的特性」の3つでとらえられている。運動に親

しむ資質や能力の基礎を培う体育科の学習においては，「構造的特性」や「効果的特性」を踏まえつつ，運動を行う者の欲求を充足する機能，いわゆる，児童生徒が運動を通して運動のもつ魅力や楽しさである「機能的特性」を味わわせることを重視して学習指導を進めることが大切であると考えられる。

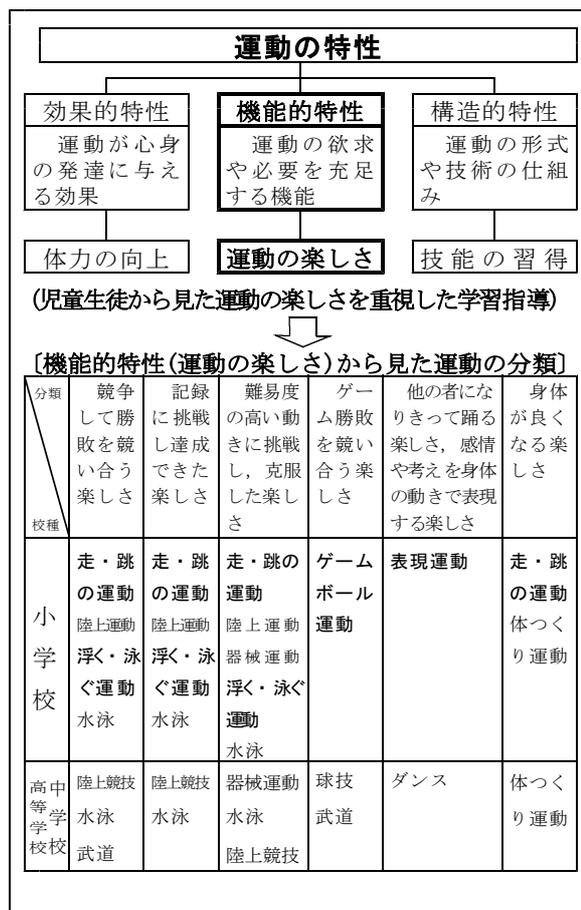


図1 運動の特性の構造図

教師が「機能的特性」を理解することで、児童生徒にその運動をどのように受け止めさせ、どこに楽しさを感じるかなど、運動との関係を気付かせることができる。そして、この気付きをもとに教師は、各種の運動の技能を高めて課題に挑戦したり、勝敗を競い合ったりすることから得られる運動の楽しさを体感させる授業の計画・実践を行うことができる。

このような授業を展開するためには、適切な運動量を確保しながら、分かりやすい「めあて」を持たせ、意欲的に取り組むことができる「場」や、楽しく活動できる「ルール」などを設定する必要がある。

また、個人の運動能力に応じた学習のめあてや内容の具現化を図る工夫も重要である。

2 運動の楽しさを味わう児童生徒の姿

体育科の学習を通して、運動の楽しさを味わう児童生徒の姿としては、次のような姿が考えられる。

- ① 今までの学習内容や生活経験を生かしながらコツを発見する児童生徒
- ② 技等に挑戦しながら、課題を解決していく児童生徒
- ③ できるようになった技や動きを工夫し、新たな取組みで運動の楽しさなどを発見する児童生徒
- ④ ルールや作戦等を工夫する児童生徒

このような児童生徒の姿をもとに「機能的特性」を加味して、小学校における跳び箱運動において、運動の楽しさを味わう姿として次のようなことが考えられる。

- ① 今までの学習を生かし、強い踏み切りや手のはねなど、技能的なコツを発見する児童
- ② 技等に挑戦しながら、意欲的に自分の課題を解決していく児童
- ③ できるようになった技や跳び方を工夫し、さらに楽しさを発見する児童
- ④ 学習を安全かつ楽しくできるようなルールを考え、行動できる児童

ここで、跳び箱運動（開脚跳び）の単元における運動の楽しさを味わう児童の姿の例を説明する（図2）。

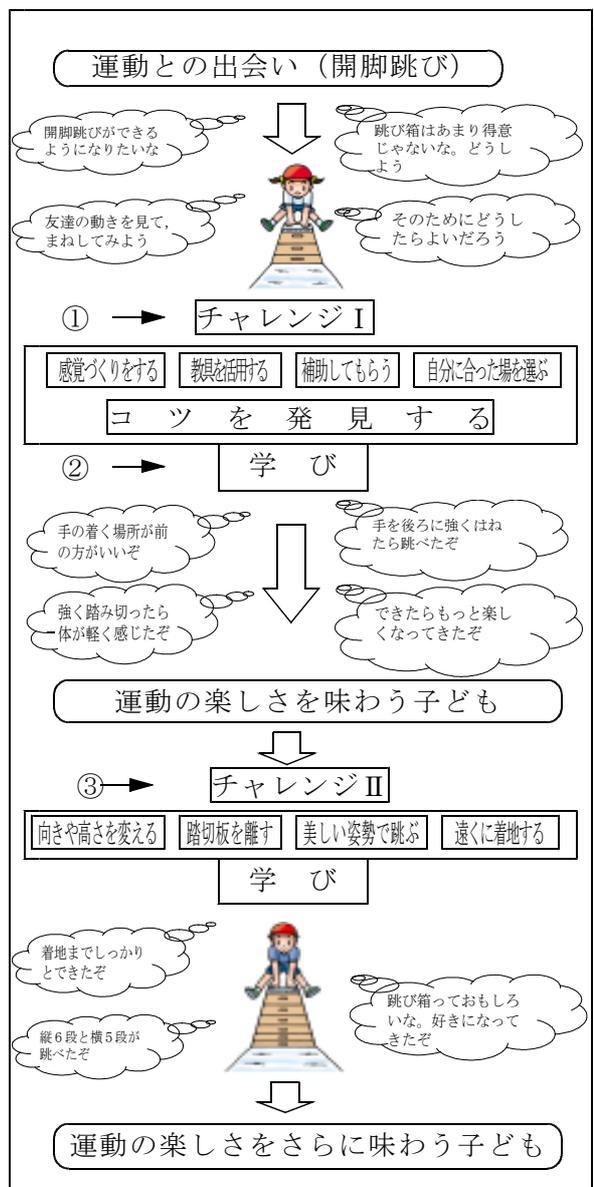


図2 運動の楽しさを味わう子どもの姿の例

3 運動の楽しさを味わう学習指導の工夫

運動の楽しさを味わう学習指導を実践するためには、学習内容に応じて指導過程や個に応じた指導、運動する場や教具、掲示資料を工夫することが大切である。

(1) 指導過程の工夫

指導過程においては共通のめあてや個

人のめあての設定(つかむ)、課題解決に向けた学習(挑戦する)、学習成果の発表(たしかめる)など、児童生徒の実態や学習活動に応じた指導過程の工夫(図3)を行うことも重要である。

(以下の実践例については、鹿児島市立山下小学校の実践例を基に作成)

過程	主な学習活動	指導の工夫
つかむ (9)	本時のめあてや約束について確認し合う。 自分の挑戦したい場で大きな開脚跳びをしよう。	◎ めあて及び学習の約束の確認 共通や個人のめあての確認を行うとともに、学習の進め方や安全面を含めた学習の約束を確認する。
	準備運動、主運動の類似運動をする。	◎ 学習への心と体の準備 けがの防止のため、体ほぐしの運動と開脚跳びで使う部位の準備運動を行い、その後、開脚跳びの動きや感覚づくりにつながる類似の運動を行う。
挑戦する (28)	大きな開脚跳びのコツを生かして跳ぶ。 【チャレンジI】	◎ コツの発見(課題解決) 発見したコツを生かして、課題の解決に向けて挑戦させる。 ※ コツの発見の時間を十分に確保する。
	チャレンジIを生かして大きな開脚跳びのコツについて話し合う。	◎ コツの共有化 発見したコツを出し合い、みんなのコツとしてまとめる。
	向きや高さなど楽しみ方を工夫して、大きな開脚跳びに挑戦する。【チャレンジII】	◎ 楽しみ方の工夫・発見 高まった動きの楽しみ方を工夫し、さらに動きを高める。 ・ 楽しみ方に応じた場の設定を行い、楽しみ方を工夫しながら、思い切り活動させる。 ・ 友達の動きを見たりしながら、楽しみ方や自分の動きに役立てる。
たしかめる (8)	整理運動をする。	◎ 心と体のクーリングダウン
	本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。 本時の学習を振り返り、次時の学習に見通しや意欲を持つ。	◎ 学習の振り返り 発見したコツや高まった動きや技能の伸びを確認する。 ◎ 次時への意欲化

図3 指導過程の工夫を図った指導事例

(2) 個に応じた指導の工夫

児童生徒が自分の課題を解決していく

ことができるように、個人のめあてや技能の程度、指導の手立てなどをまとめた実態

把握表を活用するなどして、教師が本時までの実態を把握することが重要である。

さらに、教師がその課題を類型化し、各自の課題の解決を図る場づくりに努め、一人一人の課題に即した、個に応じた指導の充実を図ることも重要である。

(3) 運動する場や教具の工夫

実態把握表を基に、児童生徒の課題を類型化し、(図4)のように課題に応じた多様な場の設定や教具を工夫することが大切である。



図4 跳び箱運動の場や教具の工夫例

(4) 掲示資料の工夫

児童生徒が運動の楽しさを味わって学習するためには、自分の取組に見通しをもったり、自分の課題やコツ(技能のポイント)を発見、確認したり、「運動をしたい」、「で

きるようになりたい」という意欲を喚起する構造的で技の動きなどがわかりやすい(図5)のように掲示資料を工夫する必要がある。

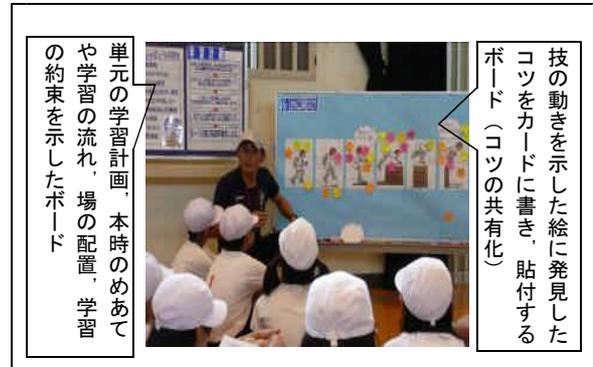


図5 跳び箱運動の掲示資料の工夫例

児童生徒に運動の楽しさを味わわせることを意識した体育科の学習を行うことによって、児童生徒が自分なりのめあてを持ち、その解決に向けて、コツを発見しようと考えたり、練習方法を選択したりしながら、精一杯運動に取り組むようになる。また、課題解決のために、友達と協力して主体的に学習に取り組み、運動の技能をはじめ関心・意欲・態度、思考・判断力の向上が期待できる。

各学校において、体育科学習指導の充実を図り、運動の楽しさを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を持った児童生徒の育成に取り組んでいただきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』平成20年 東洋館出版社
- 鹿児島市立山下小学校 『生きる力をはぐくむ学習指導の開発1』平成20年 林 恒明 著 『体育科教育学入門「器械運動の授業づくり」』平成14年 大修館書店 (教職研修課)